公害と環境保全

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿ 月 ＿＿＿＿ 日

今日の問い

公害をどう防ぎ、環境を守る社会をどうつくってきたのだろう。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 公害の防止と環境保全

四大公害病

1 企業活動などで人の健康や環境がそこなわれること。

5 水俣病・新潟水俣病・四日市ぜんそく・イタイイタイ病。

7 1993年に定められた、環境保全の基本となる法律。

高度経済成長の時期、工場の排水や排煙などで人々の健康が害される [1] **公害** が各地で起こった。とくに、熊本県などの [2] **水俣病**、新潟県の新潟水俣病、三重県の [3] **四日市ぜんそく**、富山県の [4] **イタイイタイ病** は [5] **四大公害病** とよばれ、被害者は裁判に訴えて、いずれも勝訴した。水俣病と新潟水俣病は化学工場の排水にふくまれる有機水銀、イタイイタイ病は鉱山から流れ出たカドミウム、四日市ぜんそくは石油化学コンビナートの排煙による大気汚染が原因である。

政府は1967年に公害対策基本法を定め、1971年に [6] **環境庁**（2001年から環境省）を設けて対策を進めた。1993年には、地球環境問題にも対応する [7] **環境基本法** が定められた。開発の前に環境への影響を調べる [8] **環境アセスメント**（環境影響評価）も行われる。公害を出した企業が、その費用を負担する考え方を、汚染者負担の原則という。国だけでなく、地方公共団体や企業、市民団体も、それぞれの立場で環境を守る活動に取り組んでいる。

2 循環型社会

3R

9 資源をくり返し使い、ごみを減らす社会。

13 使い終わった物を資源として再び利用すること。

11 ごみになる物を減らすこと。

大量に生産し、大量に消費して、大量にすてる社会は、資源のむだづかいやごみの増加をまねく。そこで、資源をくり返し使い、ごみを減らす [9] **循環型社会** をめざし、2000年に [10] **循環型社会形成推進基本法** が定められた。家電リサイクル法や容器包装リサイクル法などもあり、資源の再利用が進められている。

取り組みの基本が三つの「R」である。ごみになる物を減らす [11] **リデュース**、使い終わった物をくり返し使う [12] **リユース**、資源として再び利用する [13] **リサイクル** である。私たちも、買い物でむだを減らし、分別を守ることで、環境への負担を小さくできる。たとえば、ペットボトルやびんの回収、古紙の再利用、詰めかえ用の商品の利用などは、身近な取り組みである。ごみの量を減らすことは、ごみ処理場の不足や資源の節約にもつながる。

[11] **リデュース** ごみを減らす	▶	[12] **リユース** くり返し使う	▶	[13] **リサイクル** 資源として再利用

できた ＿＿＿ / 13

ちりつもドリル
学校・家庭・塾・教室での印刷と配布は自由です。ウェブへの掲載・販売はできません。